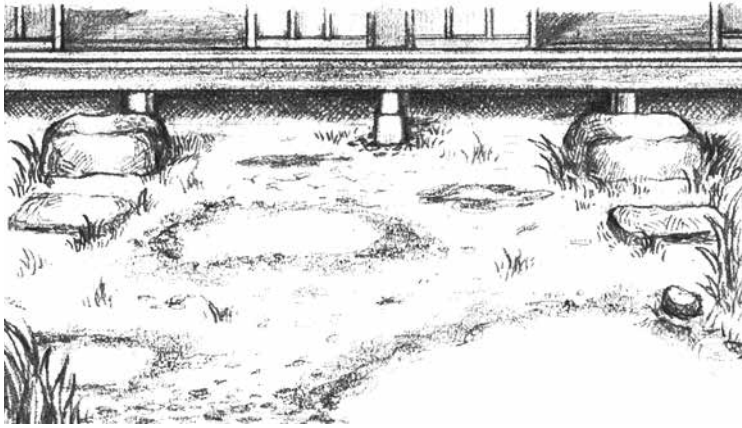


～ セピア色の風景 ～

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

「水みち」



童謡「夏の思い出」の歌い出し「夏が来れば 思い出す」ではないが、雨が降ると思いで出すことがある。
田舎の実家の庭が土（後に全面、コンクリートにした）だったころの話である。

庭のあちこちに水たまりができる。側溝はあるが、そこまでするには流れていない程度の雨、水たまりである。

すると、

祖父が小さ

な（浅い）

鍬くわを持ってきて、細く土を削り水たまりをつなぐ。

祖父は何度か言ってくれた。

「なあ、しげお、見てみる。水は低い方低い方と流れるんだ。こうやって細くとも溝を掘ってやり、水たまりをつないでやると流れるようになるんだ。詰まるころさえないければ、流れていくんだ、いつかは」と。



子ども心に『水がどつちに流れるかを確かめ、細く溝を掘り、詰まりを取り除き、じつと待てば水たまりはなくなるのだ』と。生き方の水みちならぬ、筋道を習ったような気がした。

水たまりで遊びながら。

●あおた・しげお 1956年生まれ。福島県相馬市出身。2016年5月から仙台建設業協会の専務理事を務める